

清和文楽人形芝居

熊本県重要無形文化財



外題「阿蘇の鼎灯」(あそのていとう)

清和文楽 は…

上益城郡山都町の清和地区に伝わる人形浄瑠璃芝居です。

文楽は、「**太夫**(たゆう)」と「**三味線**(しゃみせん)」、「**人形遣い**(にんぎょうつかい)」の3役によって完成する「三業一体」の芸能です。

江戸時代末より、日々の農作業の合間の娯楽として地元の方々により現在まで継承されています。



継承の取り組み

清和地区の小中学校で子供たちが「たいせつなふるさと」を素肌で感じ、大人になってもふるさとを忘れることがないように、「清和文楽人形芝居」に触れ、学ぶ機会が様々な形でつくられています。(写真は平成26年清和文楽合宿の一コマ)



太夫



三味線



人形遣い

— 清和文楽への思い — 清和文楽人形芝居保存会会員 40代/男性

「文楽人形を操る際には、お客さんが楽しんでもらえるよう、そして自分が楽しくなるように自然体で臨むようにしています。」

この言葉は、自分が文楽に関わることになる時に先輩からのアドバイスで、とても気持ちが楽になりました。

昔から文楽は、清和に住む人たちが自分たちの娯楽として続いてきたものです。これがふるさとを思う気持ちにつながれば嬉しく思います。

